二葉幼稚園　園のたより

2026年

11月の聖句

あなたがたのこころを喜びでみたしてくださっているのです

使徒言行録14章17節

11月のさんびか　　わたしたちのたべるもの　　こども讃美歌改訂版　102

恵みに感謝　～兎のゆきちゃん物語～

園には2016年11月1日生まれの兎がいました。子ども達から名前を募集すると「雪みたいに真っ白だからゆき君！」「二葉の兎だから二葉がいい！」の二つが多かったので「ふたば ゆき」と命名。元気な間は兎小屋で年長児がお世話をしました。ゆき君は尿道にピンポン玉程のしこりがあります。鼻涙管も詰まりやすく、目の病気もあり、口付近にも病気が見つかりました。ある日、ゆき君の手足が突然痙攣。思わず動物好きの理事長先生に助けを求めました！先生は暫くの間、ゆき君を優しく撫でながら「大丈夫だよ～大丈夫大丈夫」と語り続けてくださいました。するとゆき君は落ち着いたのです。教職員も毎日ゆき君に語り掛け、水を飲ませ、食事を与え…。人間なら80歳～90歳の高齢のゆき君は、段々ウトウト眠る時が増えてきました。理事長先生ご家族４人は赤ん坊のようにゆき君を順番こに抱いて、語り掛け、撫でて、汚れを洗ったり拭いたりして、愛情を注いでくださいました…。息絶えそうだったゆき君、献身的な看護で何度も奇跡的に立ち上がり、最後の最後まで健気に懸命に生き抜き、2026年10月27日17:10教職員が見守る中、神様の元へ逝きました……。空には満月が輝いていました。

小さな身体で病と闘い、あえぎながら、皆の愛情に応えるような尊い生き様に【生きようとする勇気】【あきらめない心】を身をもって私達に伝え、励ましてくれたようでした。

「今迄ありがとう。絶対忘れないよ。ずっと大好き」「遊んでるとこ見守ってくれてありがとう」「ゆきちゃん大好きだったけどけんごくいけけも(天国行けても)大好きだよ」字が書けない子はゆき君や好物のりんごを描きました。入園前後、涙々の朝、子ども達がどれ程ゆき君に慰められたことでしょう。ありがとう…。皆で礼拝堂でお別れ会をしました。「帰り道、空に虹がかかってたんだよ。ゆき君の虹！」翌朝、✡君が教えてくれました。虹の橋…渡ったんだね…。抱きしめること、大丈夫だよ大好きだよと愛情を伝えること、関わり、祈ることで兎も人も元気になる…神さまの大いなる恵みに感謝！ふたばっこも日々、精一杯生きています！【園長】